ホンダ こまめ
F210KR1

取扱説明書

お買いあげありがとうございました。
ご使用になる前に必ずこの取扱説明書
をお読みください。

お買いあげありがとう
ございました

お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、お買いあげいただいた販売店または下記の**〈ご相談窓口〉**にお気軽にお申しつけください。

〈ご　相　談　窓　口〉

名　　称	電話番号	郵便番号	所　在　地
本田技研工業株式会社 お客様相談室	03 (423) 4211	107	東京都港区南青山2—1—1
本田技研工業株式会社 お客様相談室　北海道	011(781)2929	065	北海道札幌市東区本町２条10—2—29
本田技研工業株式会社 お客様相談室　仙　台	022(288)6561	983	宮城県仙台市六丁の目西町1—10
本田技研工業株式会社 お客様相談室　名古屋	052(363)2929	454	愛知県名古屋市中川区五月通4—22
本田技研工業株式会社 お客様相談室　大　阪	0720(29)7755	572	大阪府寝屋川市池田中町2—12
本田技研工業株式会社 お客様相談室　九　州	092(962)2466	811-01	福岡県粕屋郡新宮町大字下府字塩出599

・所在地、電話番号が変更になることがありますのでご了承ください。

ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読みください。

ホンダ F210KR1は、小型、軽量で汎用性に富んだティラーです。安全、快適にお使いいただくために正しい取扱いをしなければなりません。

トレーラー走行はできません

(小型特殊自動車の認定を受けていません。)

なお、この取扱説明書は、仕様変更などによりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。ご了承ください。

目　次

安全にお使いいただくために これだけはぜひ守りましょう …… 4

各部の名称と取り扱いをおぼえましょう …… 8

エンジン スイッチ …… 9
エンジン回転調整レバー …… 9
クラッチ レバー …… 10
始動グリップ …… 11
チョーク ノブ …… 11
作業機取付部 …… 12
ハンドル高さ調整レバー …… 13
耕うん爪 …… 13

エンジンをかける前に点検しましょう …… 14

ガソリンの点検 …… 14
エンジン オイルの点検 …… 15
空気清浄器(エア クリーナ)の点検 …… 16
変速機オイルの点検 …… 16

エンジンのかけかた …… 18

運転操作のしかた …… 21

1．クラッチ レバー …… 21
2．エンジン回転調整レバー …… 22

エンジンのとめかた …… 23

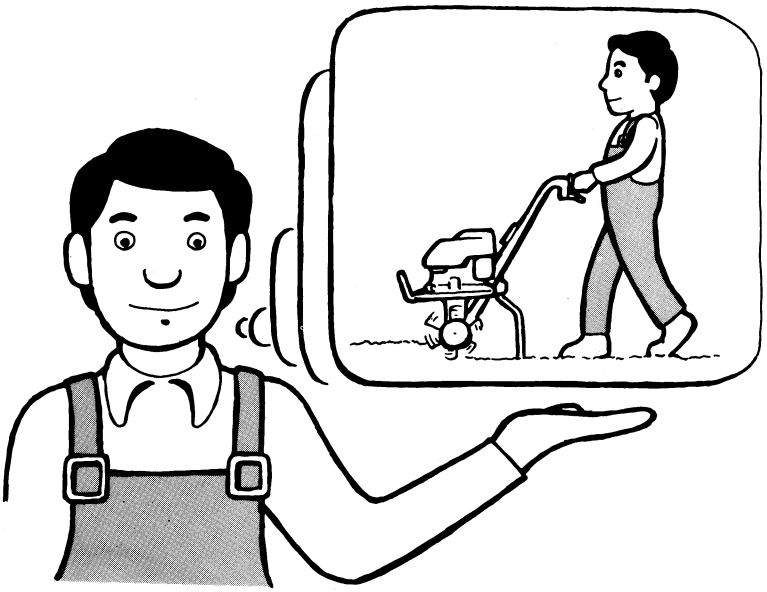
定期手入れを行いましょう …… 25

日常点検 …… 25
定期点検 …… 26

やさしい点検・整備……27
携帯工具……27
エンジン オイルの交換……28
空気清浄器(エア クリーナ)の清掃……30
点火プラグの清掃、調整……31
エンジン回転調整ワイヤの調整……32
クラッチ ワイヤの調整……33
ハンドル高さ調整ワイヤの調整……33
燃料ろ過器の清掃……34
長期間使用しない時の手入れ……36
別売部品……38
故障のときは……39
主要諸元……40
同梱部品の組み付けかた……41

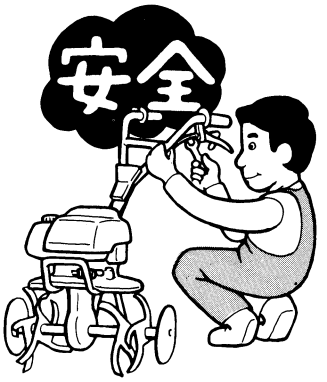
安全にお使いいただくために　これだけはぜひ守りましょう

ティラーの取扱いは正しく、ちょっとした油断がもとで、思わぬ事故を招くことがあります。安全で、能率的な農作業のために次のことを必ずお守りください。



●安全のために知っておきたいこと

★日常点検、整備を忘れずに。
★火災の恐れがある場所では作業しない。また格納の場合、火の気のないところにおくなど火災予防に十分注意してください。
★子供を乗せたり、近寄らせないこと。
★工具を適切に管理し、正しく使用する。
★衣服や頭髪、手ぬぐいなどが巻込まれないよう、服装には十分注意する。
★本機を持上げる時は、必ずエンジンをとめてください。







●作業を始める前に

★必ず点検、整備を行う。

- 点検作業は、通行の妨害及び危険等のない平坦で安全な場所で行う。
- 屋内でエンジンをまわしながら点検する場合は換気に十分注意する。

★防護装置の保全

- 防護装置は正しく取付けられているか。
- 点検、整備のため取外された防護装置は正しく復元され、確実に締付けられているか。



●作業中の注意

★作業中は、まわりに十分注意し、関係者以外の人を近づけない。

★傾斜地では、転倒を防ぐため速度や旋回などに十分注意する。

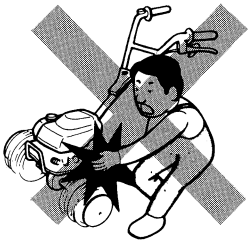
★作業場への出入り、溝または畦畔の横断、軟弱地の通過など、転倒には十分注意する。

★作業場への出入り、溝または畔越えを行うときはアユミ板等を使用してください。本機を落下させたり、車軸部に過大な力をかけると本機を破損するばかりでなく、危険です。

★車軸作業機を取付ける場合は、車軸取付部のガタを必ず確認してください。異常にガタがある場合、そのまま使用すると本機を破損するばかりでなく危険です。お買いあげ販売店へお申しつけください。

★一酸化炭素中毒にならないようハウス内の換気に十分注意して使用する。
★作業中は、動力伝達装置や回転部に接触しないよう特に注意する。
★方向転換時、耕うん爪が回転しておりますので、ズボンや足などが接触して巻込まれないように注意してください。
★土塊や石などがとび散る作業においては傷害に注意する。
★ロータを4連以上装着して使用しない、また、おもりを標準以上積載しない。変速機に負荷がかかりすぎギヤ音が大きくなります。
★作業中に異常を感じたら、必ずエンジンを停止させてから点検を行う。
★休けいなどで本機を離れる場合はエンジンをとめて水平な安定した場所に確実に固定する。
★ガソリン点検補給時、必ずエンジン停止、火気厳禁。
- ガソリンはこぼさない。
- ガソリンがこぼれたらきれいに拭き、乾かしてから始動する。

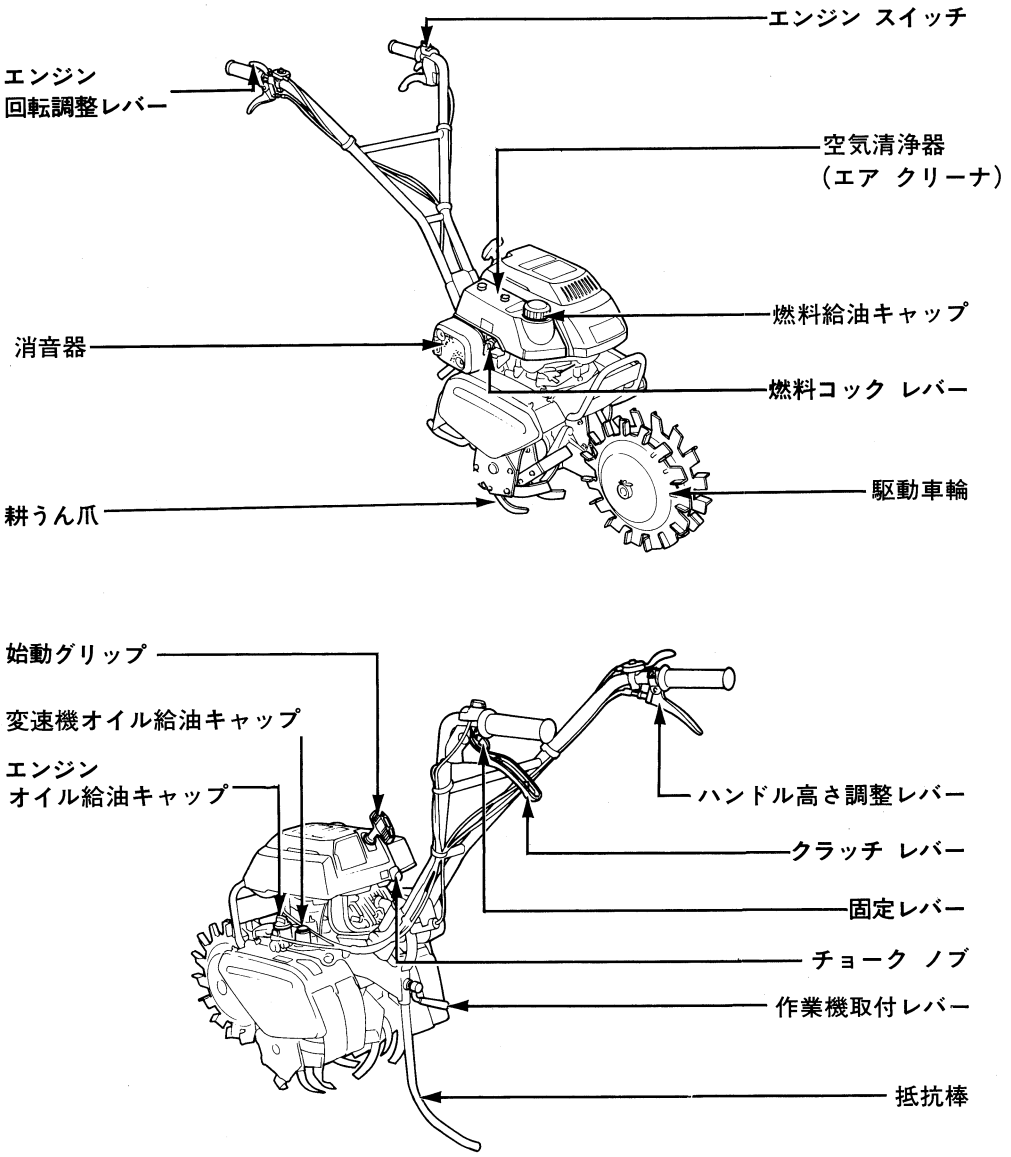




●作業が終ったら

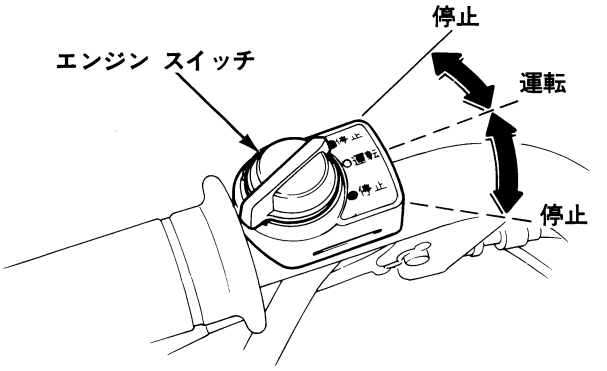
★次の作業のために機械の点検、整備を行う。
★作業機の取外しは、平坦で安全な場所で行い、前傾及び後傾状態で放置しない。
★トラック等への積降し等は、燃料コックレバーを止にし、転倒や落下に注意する。
★保管は、安定した場所に安全な状態で行う。

各部の名称と取り扱いをおぼえましょう



エンジン スイッチ

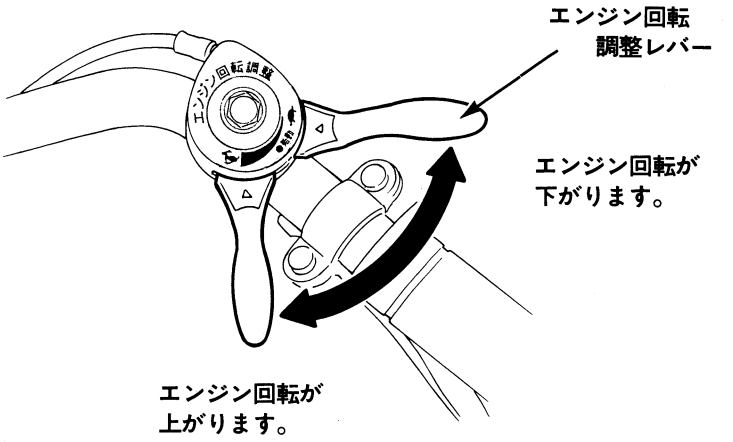
エンジンスイッチは、エンジンの始動、停止する時に操作します。



エンジン回転調整レバー

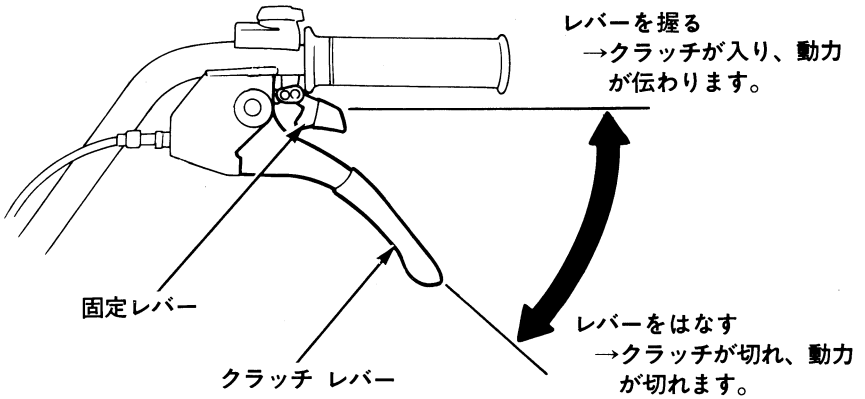
エンジン回転を調整するものです。

エンジンの始動、運転中、停止時に操作します。

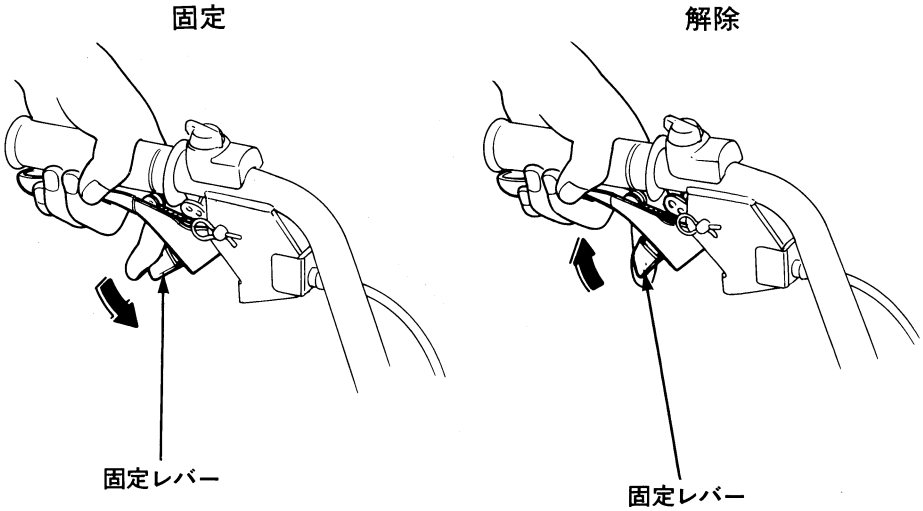


クラッチ レバー

クラッチは、車軸及び爪軸への動力を断接する装置です。

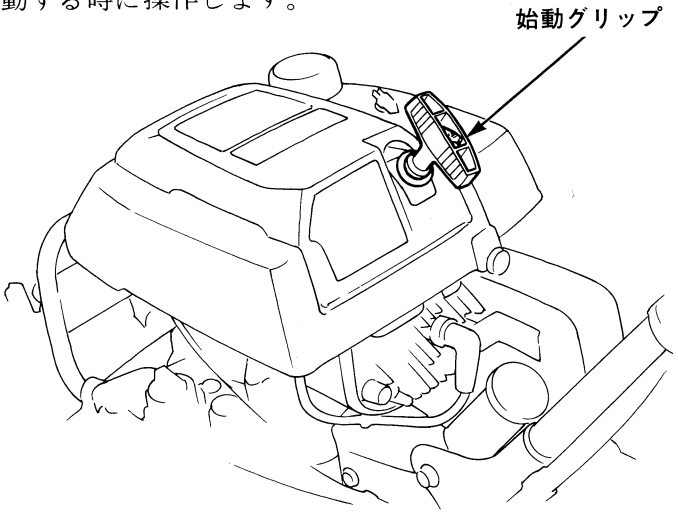


- クラッチ レバーを握って固定レバーを指で押すとクラッチ レバーは固定されます。
- 解除するときは、固定レバーを手前に引き、クラッチ レバーをはなします。



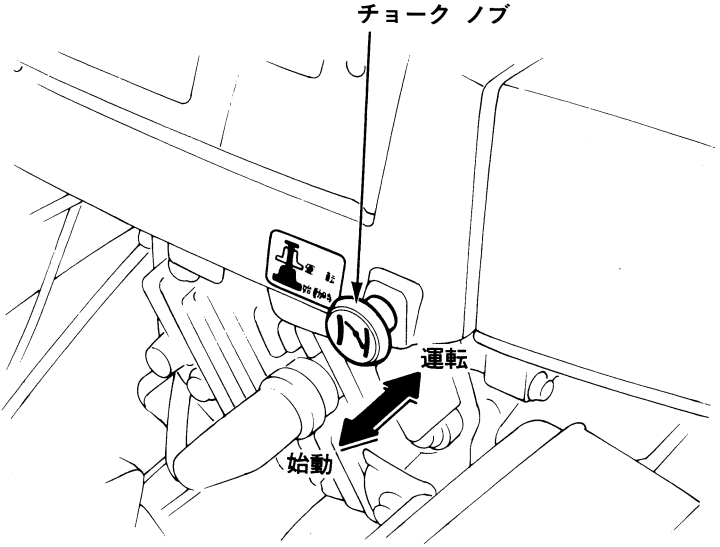
始動グリップ

エンジンを始動する時に操作します。



チョーク ノブ

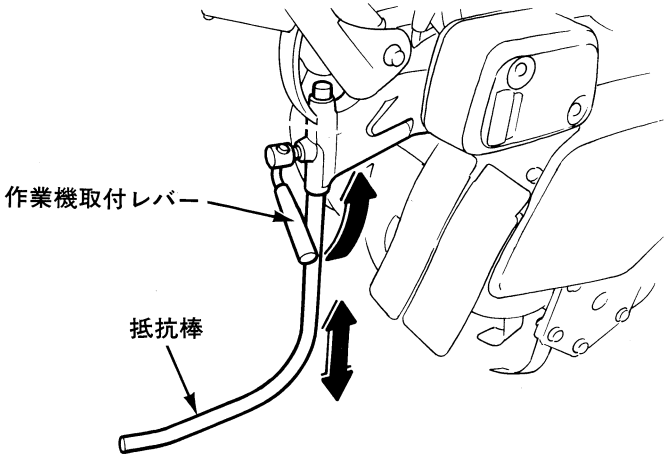
エンジンが冷えている時、またエンジンがかかりにくい時に操作します。



作業機取付部

作業機（抵抗棒）を取付けるところです。

取付けは、使用したい任意の高さにレバーで固定します。

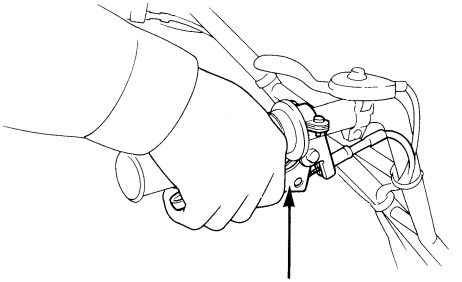


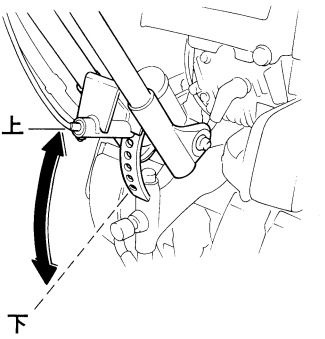
ハンドル高さ調整レバー

ハンドルの高さを、作業内容、運転者の身長に合わせるレバーです。

<調整のしかた>

ハンドル高さ調整レバー(ワンタッチ)を握って、ハンドルを上下して任意の穴へさしかえます。ハンドル高さは上下７段に調整出来ます。

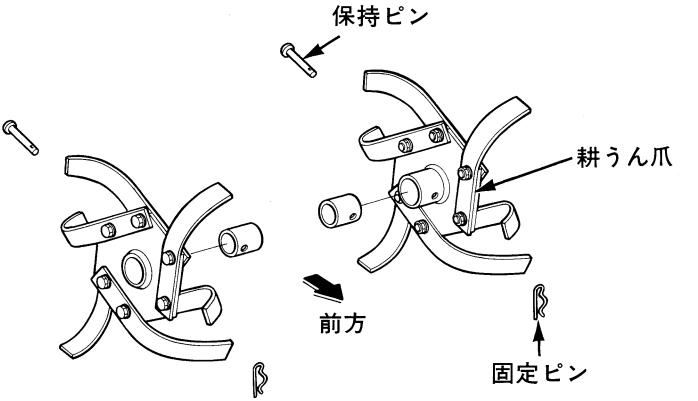




耕うん爪

<取付けかた>

耕うん爪は下図のように保持ピンを差し込み固定ピンで固定します。



エンジンをかける前に点検しましょう

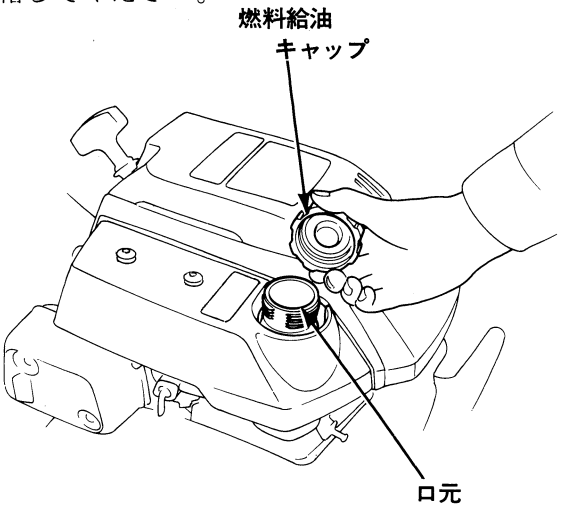
★点検は平坦な場所でエンジンを水平にし、エンジンをとめて行ってください。

ガソリンの点検

点検

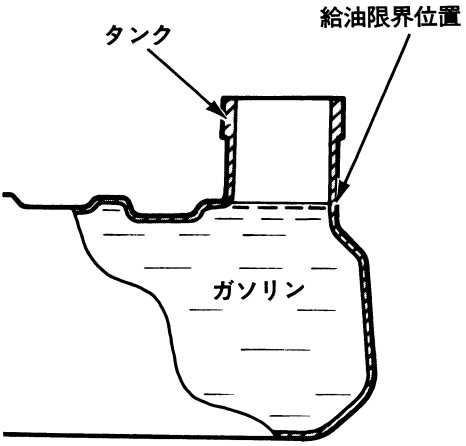
燃料給油キャップを外し、注入口の口元より少なめにガソリンがあるか点検します。

少ない場合は補給してください。



補給

- キャップを外し、注入口の口元より少なめに補給します。
  使用ガソリン：無鉛(レギュラ ガソリン)
  タンク容量：0.9ℓ
- 補給後、キャップを完全に締付けてください。



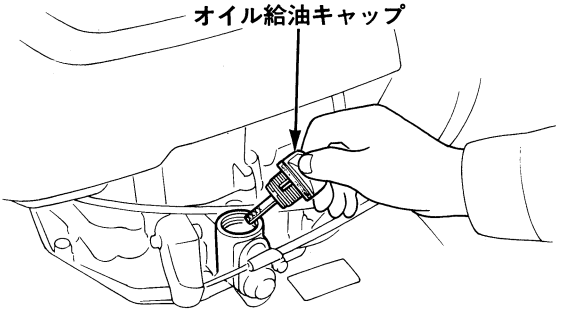
注意

- 火気厳禁
- 必ずエンジンをとめて補給してください。
- 本機に貼られている注意ステッカーにしたがってください。

エンジン オイルの点検

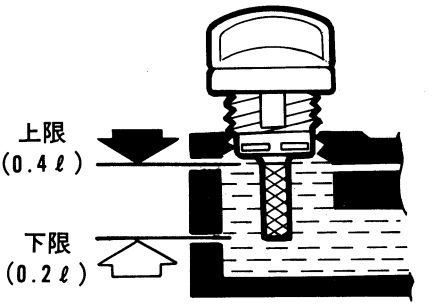
点検

オイル給油キャップを外し、キャップをねじこまず差し込んで点検します。油面が下限に近い時には、上限までオイルを補給してください。



補給

- キャップを外し、新しいオイルを上限まで補給します。
- **推奨オイル**：ホンダ純正
  ①ウルトラネオ汎用機用（SAE30）
  ②ウルトラ-U〈2輪車用〉（SAE10W-30）またはAPI分類SE、SF級相当のSAE10W-30オイルをご使用ください。



注意
- 低温時（気温10℃以下）では、ホンダ純正ウルトラ-U〈2輪車用〉SAE10W-30のオイルをご使用ください。
- 寒冷時（気温－15℃以下）では、API分類SE、SF級相当のSAE 5 W-30のオイルをご使用ください。

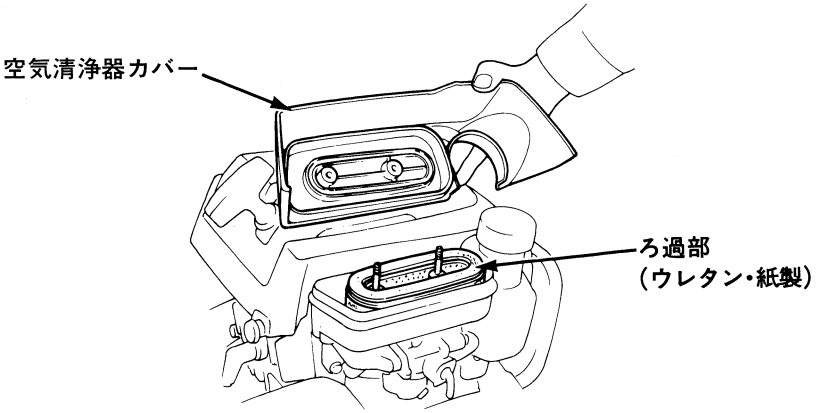
- 汚れや変色が著しい場合は交換してください（交換時期、方法は30頁参照）

注意
- キャップは、手で確実に締付けてください。
- 締付けがゆるいとオイルがもれることがあります。

空気清浄器(エア クリーナ)の点検

空気清浄器カバーを外し、ろ過部（ウレタン・紙製）が汚れていないか点検します。

汚れている場合は清掃してください。（清掃時期、方法は30頁参照）

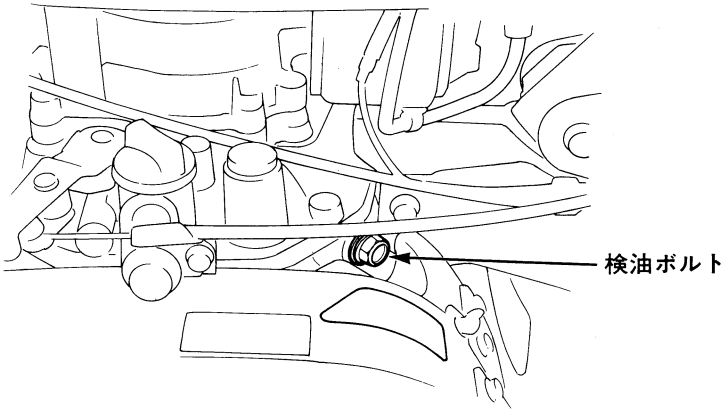


変速機オイルの点検

点検

検油ボルトを外し、オイルがにじみ出てくるか点検します。

少ない場合は補給してください。



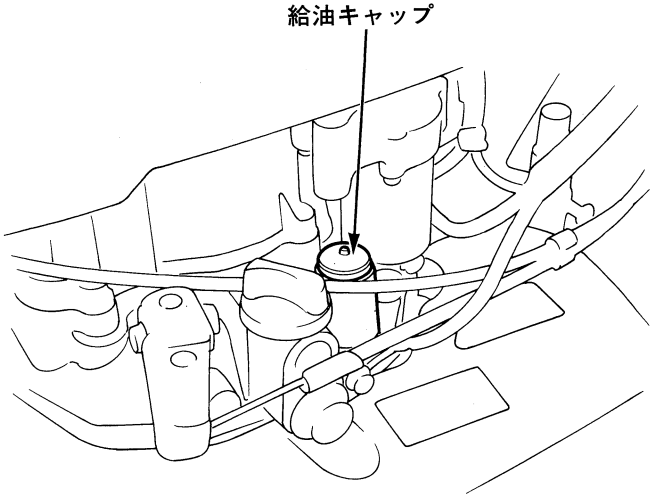
補給

- 給油キャップを外し、新しいオイルを検油ボルトからにじみ出てくるまで補給します。

  使用オイル：エンジンオイルと同じ。

  オイル容量：0.8ℓ

- 補給後、検油ボルト及び給油キャップを完全に取付けてください。

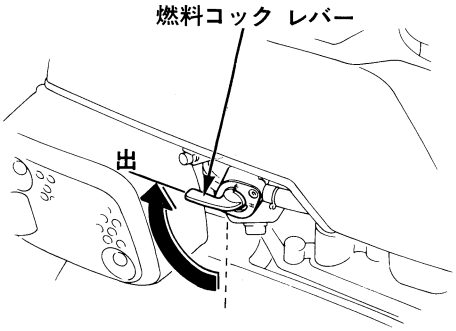


エ　ン　ジ　ン　の　か　け　か　た

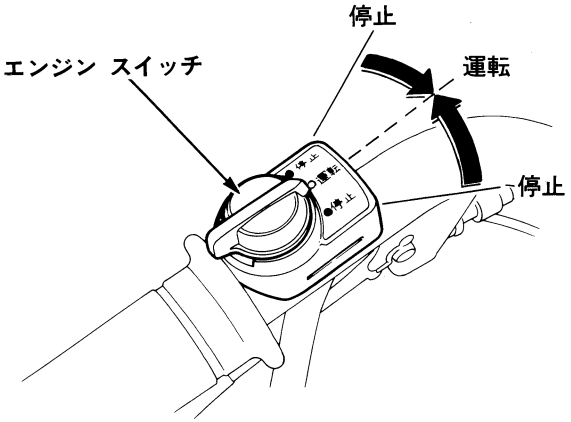
★クラッチレバーが"切"になっているか確認してからエンジンをかけてください。

1．オイルとガソリンが規定量入っているか確認します。

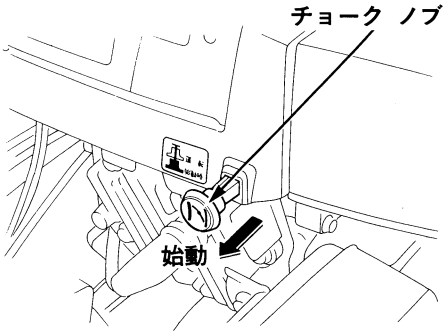
2．燃料コック レバーを**"出"**にします。



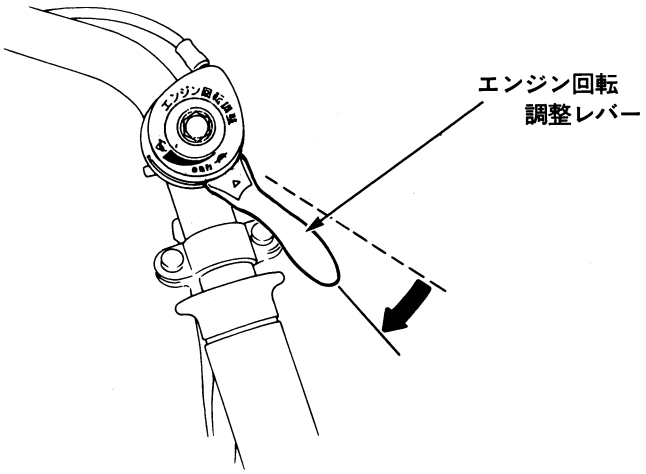
3．エンジン スイッチを**"運転"**にします。



4．寒い時やエンジンがかかりにくい時には、チョーク ノブを**“始動”**の位置にします。



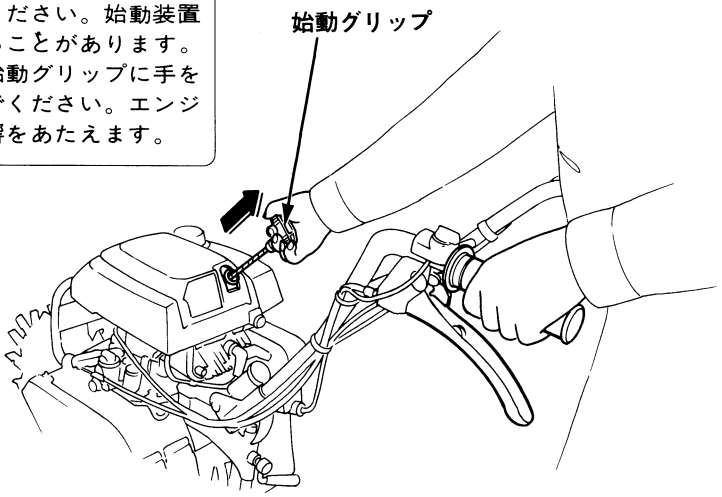
5．エンジン回転調整レバーを“高”方向に少しまわします。



6．始動グリップを引いて重くなる位置をさがし、勢いよく引きます。

注意

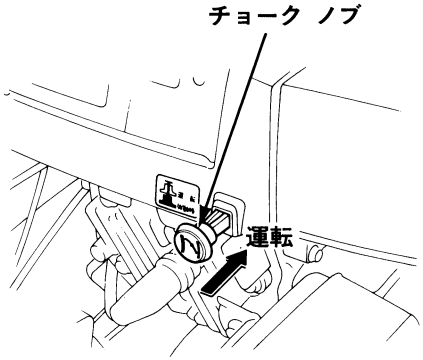
- グリップを引いたまま手を放さないでください。始動装置を破損することがあります。
- 運転中は始動グリップに手を触れないでください。エンジンに悪影響をあたえます。



始　　動

7．２～３分間暖機運転を行います。

チョーク ノブを操作したときは、エンジン回転が安定するのを確認しながら**“運転”**の位置に戻します。



運　転　操　作　の　し　か　た

★安全な作業を行なうために、十分に理解して行なってください。

運　転

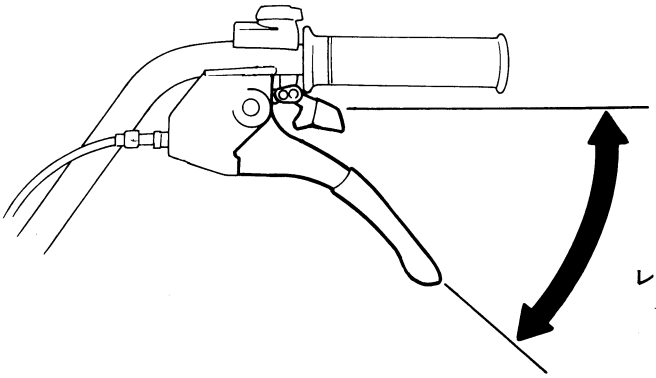
1.クラッチ レバー

クラッチ レバーの操作は、静か(スムーズ)に行います。

急激な操作を行なうと本機が飛び出したり、エンジンが停止したりします。

レバーを握る→クラッチ**“入”**→動力伝わる。

レバーをはなす→クラッチ**“切”**→動力切れる。



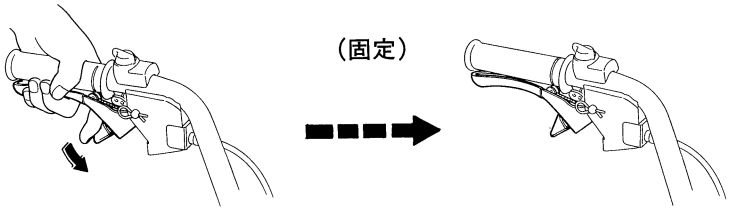
固定レバー

固定レバーを操作することにより、クラッチ レバーは握ったままの状態が保持できます。

固定レバーを使用する場合は十分クラッチ操作に慣れてから、又広い耕地及び身近に障害物のない場所で使用してください。

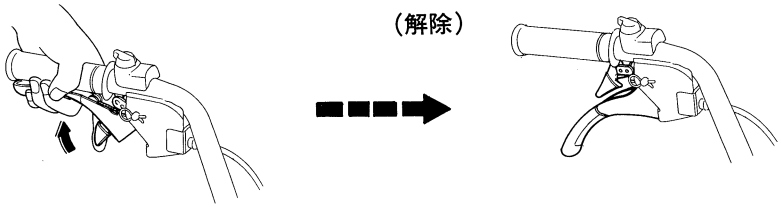
● クラッチ レバー固定のしかた

クラッチ レバーを握って固定レバーを人差し指で押すとクラッチ レバーは固定されます。



● クラッチ レバー固定解除のしかた

解除するときは、固定レバーを人差し指で手前に引き、クラッチ レバーを放します。

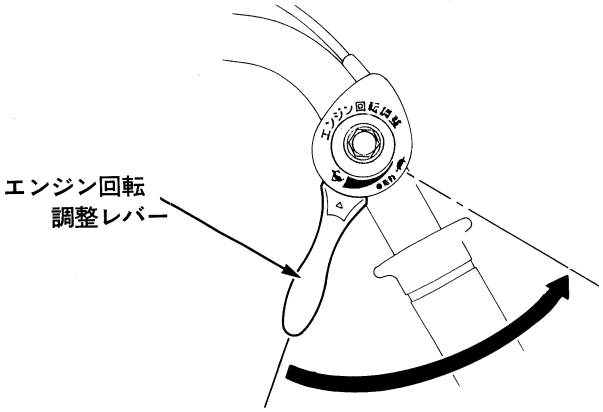


注意

- 固定レバーは狭いハウス内、障害物のある耕地では使用しないでください。
- 固定レバーを使用し作業を行う時は、状況に応じすぐ解除できる状態を保ってください。
- 固定レバーの使用は、片手運転や長時間運転するときのみ使用してください。

2. エンジン回転調整レバー

レバーを“高”方向にまわし、エンジン回転を上げます。



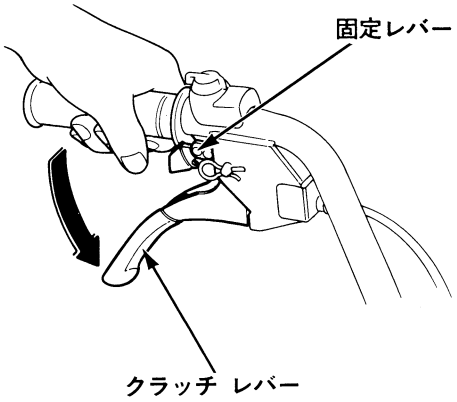
注意

- 本機を持上げる時は必ずエンジンをとめてください。
  ロータが回転し、衣類等を巻込み大変危険です。

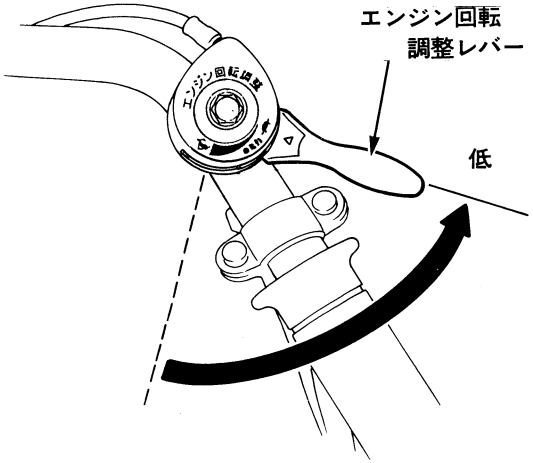
エンジンのとめかた

1. クラッチ レバーを**“切”**にします。

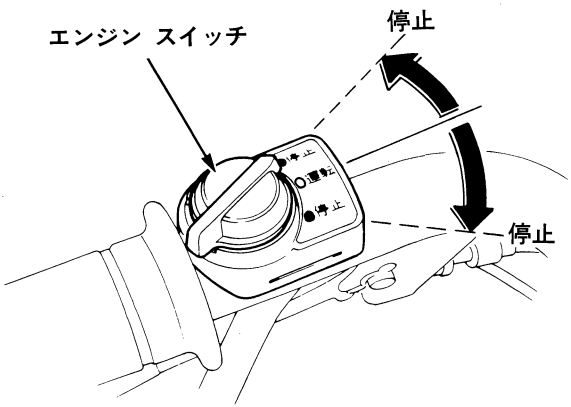
● クラッチ レバーが固定されている場合は固定レバーを引いてからクラッチレバーをはなして**“切”**にします。



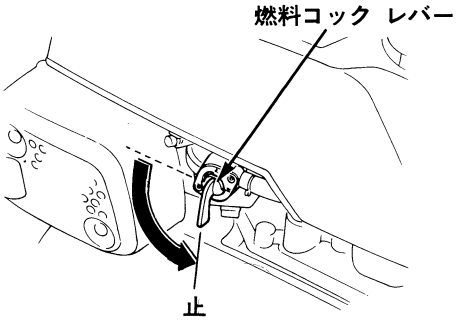
2. エンジン回転調整レバーを**“低”**の位置に戻します。



3. エンジン スイッチを**“停止”**にします。



4. 燃料コック レバーを**“止”**にします。

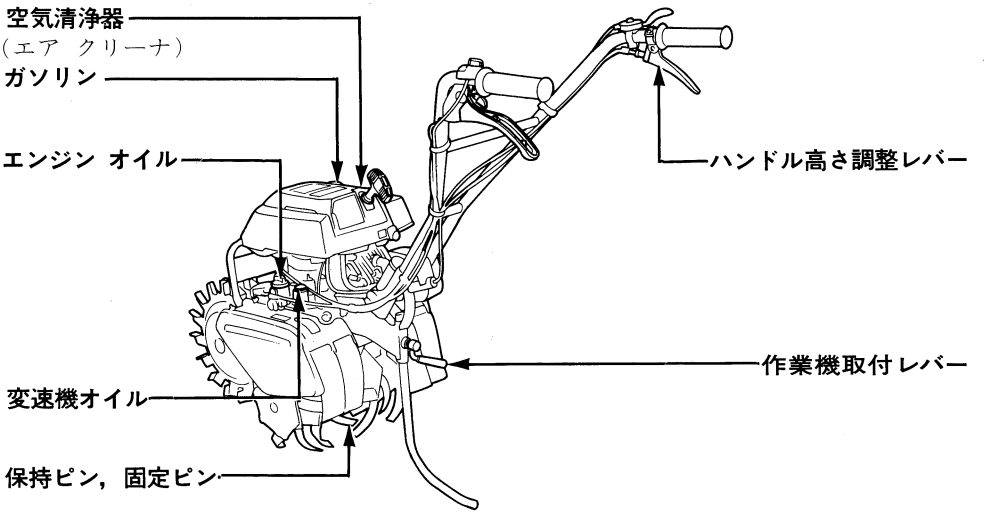


定期手入れを行いましょう

日常点検

いつも安心して使用するためには日常の点検整備が必要です。忘れずに行ってください。

- エンジンオイル……{規定量入っているか。／洩れはないか。}
- 変速機オイル……{規定量入っているか。／洩れはないか。}
- 空気清浄器……汚れていないか。（エア クリーナ）
- ガソリン……残量
- 異常個所……前日悪かった所
- 各部の締付け……{ハンドル高さ調整レバーにゆるみ、がたはないか。／耕うん爪及び駆動車輪の保持ピン、固定ピンの抜け、付け忘れがないか。}
- その他異常を感じたらただちにお買いあげ販売店へお申しつけください。



定期点検

お買いあげいただきましたティラーをいつまでも調子よく、長持ちさせるために定期点検を受けましょう。

点検項目 ＼ 点検時期		作業前点検	初回 20時間目	50時間運転毎	100時間運転毎	300時間運転毎又は1年に1回
エンジン オイル〈注1〉	点検	○				
	交換		○		○	
変速機オイル〈注1〉	点検	○				
空気清浄器	点検	○				
(エアクリーナ)	清掃			○〈注2〉		
燃料ろ過器	点検	○〈注3〉				
	清掃				○	
クラッチ ワイヤ	調整		○		○	
点火プラグ	清掃 調整				○	
エンジン回転調整ワイヤ	調整					○
クラッチ シュー	交換					○〈注4〉
ハンドル高さ調整ワイヤ	調整					○
吸入・排気弁すき間	点検 調整					○〈注4〉
燃焼室 (バルブ摺合せを含む)	清掃					○〈注4〉
燃料タンク、燃料ろ過網	清掃					○〈注4〉
燃料チューブ	交換	3 年 毎〈注4〉				

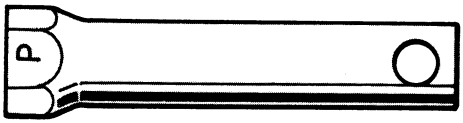
〈注1〉エンジンオイル……稼動期前にも必ず交換してください。
変 速 機オイル……稼動期前に汚れ具合を確認し、汚れがひどい場合は交換してください。
〈注2〉ほこりの多い作業の時は10時間毎又は1日1回清掃してください。
〈注3〉水、ゴミ等がろ過器のカップ部にたまったときはそのつど清掃を行ってください。
〈注4〉これらの項目は適切な工具と整備技術を必要としますので、お買いあげ販売店へお申しつけください。

やさしい点検・整備

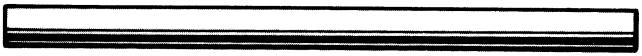
★点検・整備は平担な場所でエンジンを水平にし、エンジンをとめて行なってください。

携帯工具

工具は、点検・整備にかかすことのできないものです。常に携帯してください。



プラグ レンチ



プラグ レンチ ハンドル

※プラグの取付け・取外し、エンジン排油ボルトの取付け・取外しに使用出来ます。

エンジン オイルの交換

エンジン オイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

《交換時期》

初回：20時間目、以後：100時間運転毎

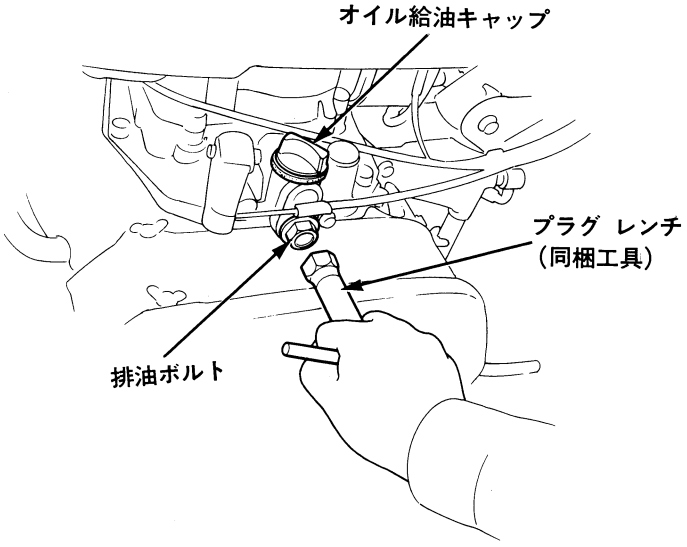
《推奨オイル》ホンダ純正①ウルトラネオ汎用機用（SAE30）②ウルトラ-U〈2輪車用〉（SAE10W-30）またはAPI分類SE、SF級相当のSAE10W-30オイルをご使用ください。

注意

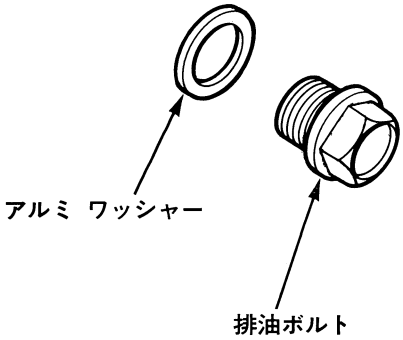
- 低温時（気温10℃以下）では、ホンダ純正ウルトラ-U〈2輪車用〉SAE10W-30のオイルをご使用ください。
- 寒冷時（気温－15℃以下）では、API分類SE、SF級相当のSAE 5 W-30のオイルをご使用ください。

《規定量》 0.4ℓ

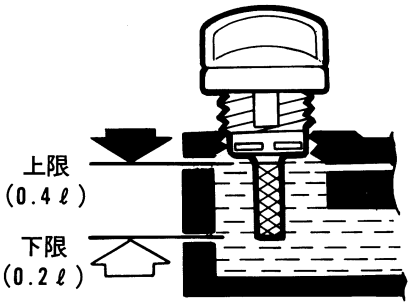
1. オイル給油キャップ、排油ボルトを外してオイルを抜きます。



2. オイルが完全に抜けたら排油ボルトを確実に締付けます。その時、アルミワッシャーを忘れずに取付けてください。



3. エンジン オイルを給油キャップのレベルゲージで確認しながら上限まで注入します。(給油キャップをねじ込まず差し込んで確認します。)
4. 注入後、オイル給油キャップをゆるまないように手で確実に締付けます。



注意

- エンジン停止直後にオイルを抜く時は、オイルの温度が高いので火傷に十分注意してください。
- オイルは使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検・交換を行いましょう。

空気清浄器(エア クリーナ)の清掃

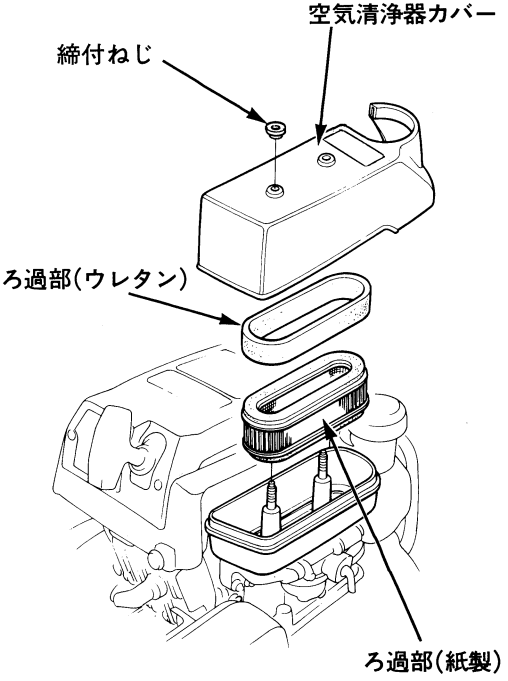
空気清浄器が目詰りをすると出力不足や燃料消費が多くなるので定期的に清掃しましょう。

《清掃時期》

50時間運転毎

ホコリの多い場所で使用した場合は１日１回または10時間毎。

1. 締付ねじをゆるめ、空気清浄器カバーを取外します。
2. ウレタンのろ過部は中性洗剤を水で薄めて洗い、更に水ですすいでから圧縮空気を吹きつけるか又はよく絞って乾かします。オイルに浸した後固く絞ってから取付けます。
3. 紙のろ過部は内側から圧縮空気を吹きつけるか、又は軽く叩いて汚れを落します。汚れがひどい場合は交換してください。



注意

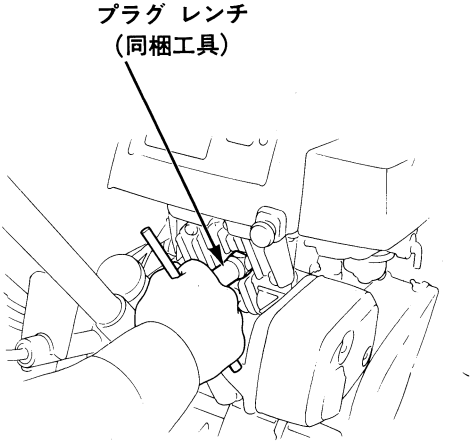
- 空気清浄器カバーの締付けは確実に行ってください。締付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。
- 空気清浄器カバーやろ過部(ウレタン)を装備しなかったり、取付け不良をすると、エンジンに悪影響を与える原因になります。

点火プラグの清掃、調整

電極が汚れたり、電極のすきまが不適当ですと、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

《清掃時期》

100時間運転毎

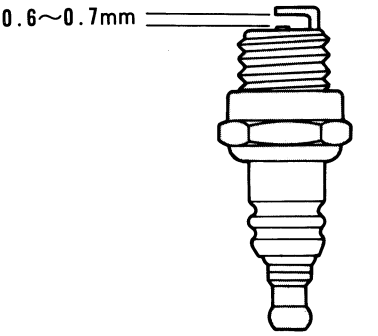


《清　掃》

1. プラグ レンチで点火プラグを取外します。
2. プラグの清掃はプラグクリーナを使用するのが最も良い方法です。お買いあげ販売店をご利用ください。
   - ●プラグクリーナが無いときは、針金かワイヤブラシで汚れを落してください。

《調　整》

- ●側方電極をつめ、火花すきまを0.6～0.7mmに調整します。



《標準プラグ》

BM4A　（NGK）

W14M-U　（ ND ）

注意

- 標準以外のプラグを使用しないでください。
- エンジン停止直後は温度が高いので、やけどをしないよう注意してください。
- プラグの取付けは、ねじ山をこわさないように、まず指で軽くねじ込み、次にプラグレンチで確実に締付けてください。

エンジン回転調整ワイヤーの調整

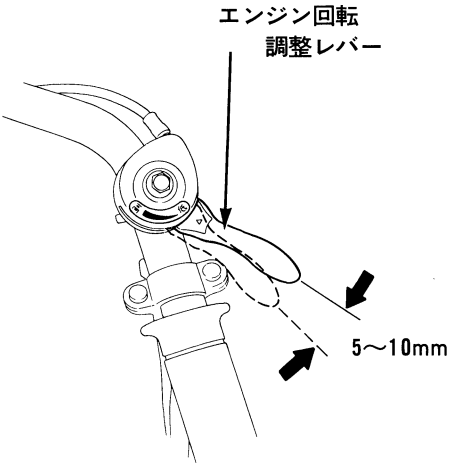
エンジン回転調整ワイヤーの調整が完全でないと、エンジン不調の原因になることがあります。

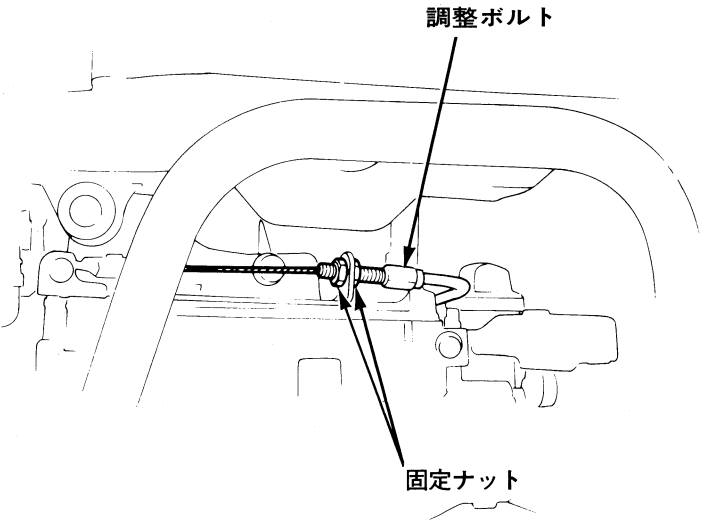
《調整時期》

300時間運転毎または１年１回

《調　整》

1. エンジン回転調整レバーの遊びが、先端で5～10mmになるように調整します。
2. 調整は、固定ナットをゆるめ調整ボルトをまわして行ってください。
3. 調整後、固定ナットを確実に締付けてください。





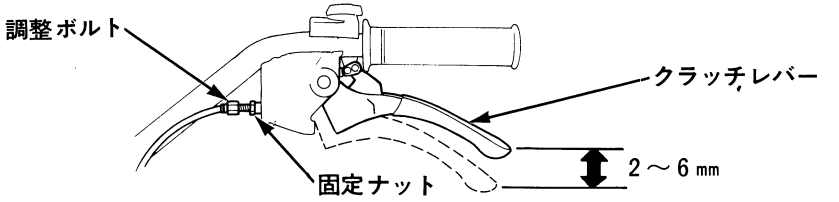
クラッチ ワイヤの調整

クラッチ ワイヤの調整が完全でないとクラッチがすべります。

《調整時期》 初回：20時間目、以後：100時間運転毎

《調　整》

1. クラッチ レバーの遊びがレバー先端で2～6㎜になるように調整します。
   調整は固定ナットをゆるめ調整ボルトで行います。



2. 調整後、固定ナットを確実に締付けてください。

> **注意** クラッチ ワイヤ調整時には、必ずエンジンを止めてください。突然車軸が回転することがあります。

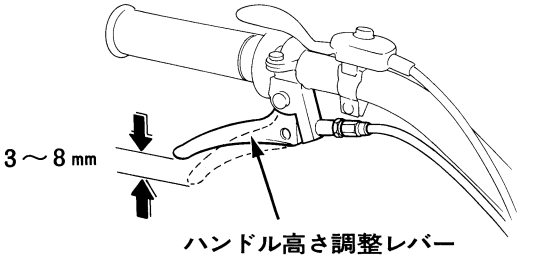
ハンドル高さ調整ワイヤの調整

ハンドル高さ調整ワイヤの調整が完全でないとレバーを握っても高さ調整が出来ないことがあります。

《調整時期》 300時間運転毎または1年1回

《調　整》

1. レバー先端の遊びが3～8㎜になるように調整します。
   調整は固定ナットをゆるめ、調整ボルトをまわして行います。
2. 調整後、固定ナットを確実に締付けてください。



燃料ろ過器の清掃

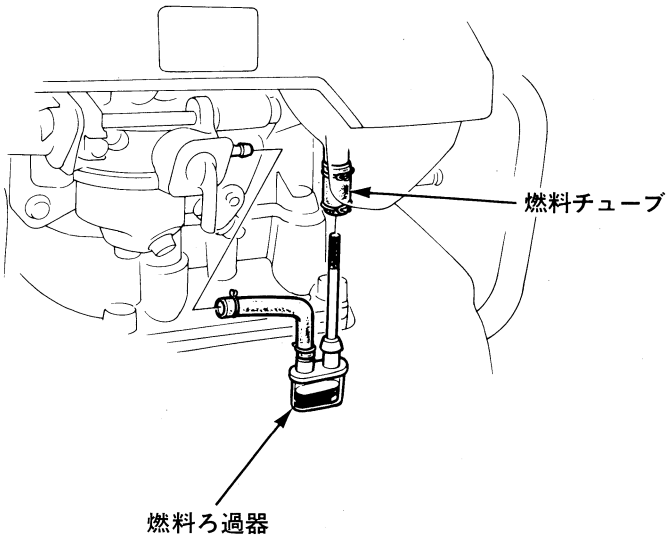
燃料ろ過器の中に水がたまったり、フィルタが目詰りをすると出力不足や始動不良をおこしますので定期的に清掃しましょう。

《清掃時期》

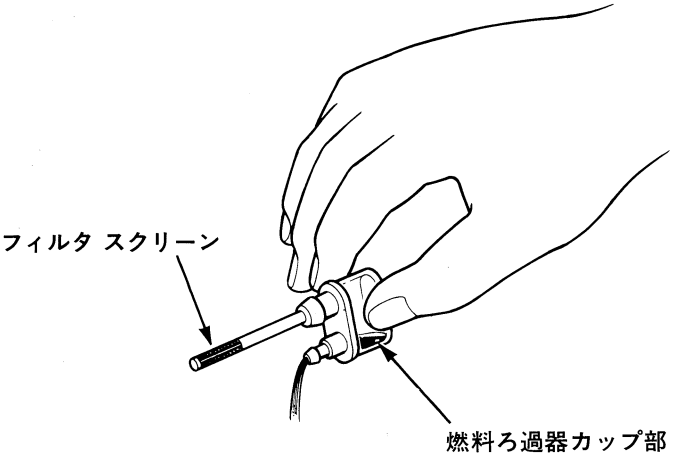
100時間運転毎

注意
- 燃料を抜く時は火気厳禁。
- 風通しの良い場所で行ってください。
- 抜いた燃料の後始末は十分に行ってください。

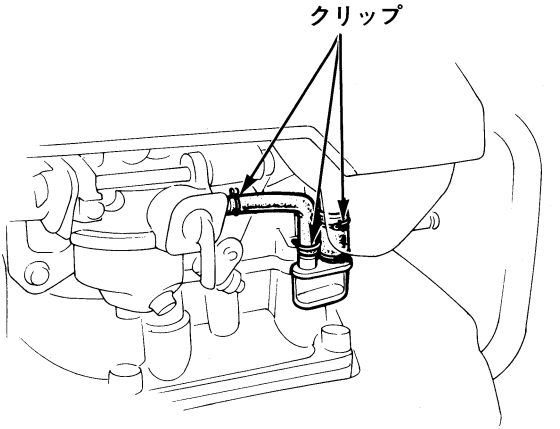
1. 燃料コックを**"止"**の位置にして燃料チューブを燃料コックから外して、タンク内のガソリンを容器に受けてください。
2. ガソリンが完全に抜けたら、燃料ろ過器を燃料チューブから外します。



3.燃料ろ過器カップ部の水、ゴミ等を容器に受けて、フィルタ スクリーン及び燃料ろ過器カップ部を清掃してください。



4.清掃が終ったら燃料ろ過器を元の状態にもどして、燃料チューブをクリップで確実に取付けます。



注意 ・燃料ろ過器、燃料コック、燃料チューブからガソリンがもれていないか点検してください。

長期間使用しない時の手入れ

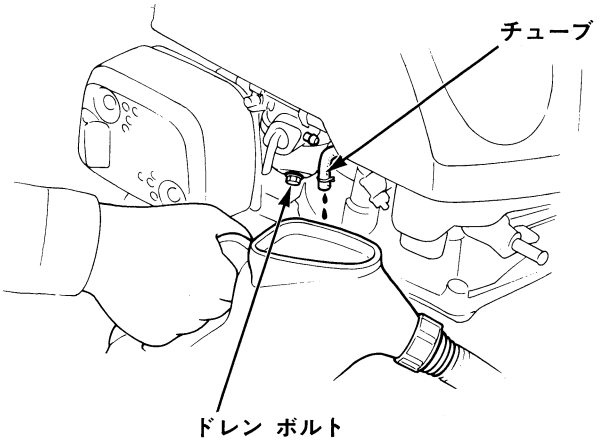
★長期間運転しない場合、または作業を終り長期間格納する場合は次の手入れを行ってください。

エンジンを必ず停止し、万一の始動を防ぐ為点火プラグ キャップをプラグから取外してください。

1 燃料タンク、気化器内のガソリンを抜いてください。

<抜き方>

1. チューブを燃料コックから外し、タンク内のガソリンを容器に受けてください。



2. 気化器内のガソリンは燃料コック レバーを**"出"**にして、ドレン ボルトをゆるめ燃料を容器に受けてください。
3. 完全に燃料が抜けたらチューブ、ドレン ボルトを元の状態にもどし、燃料コックレバーを**"止"**にしてください。

注意
- 燃料を抜く時は火気厳禁。
- 風通しの良い場所で行ってください。
- 抜いた燃料の後始末は十分に行ってください。

2エンジン オイルを交換してください。（交換方法は28頁参照）

3空気清浄器を清掃してください。（清掃方法は30頁参照）

4始動グリップを引き重くなったところで止めてください。

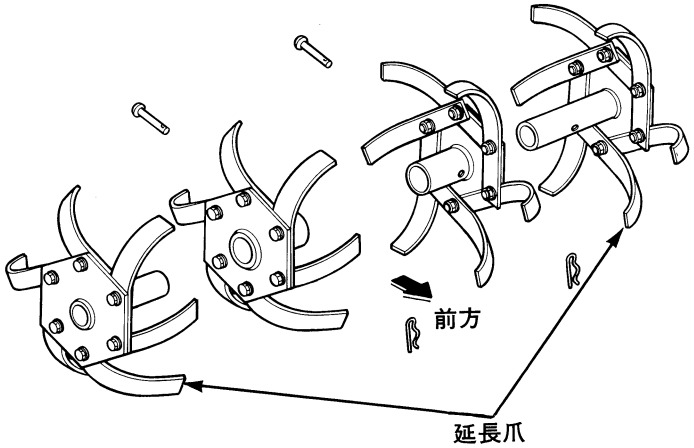
5抵抗棒を正規に取付けて、風通しの良い場所に保管してください。

注意

- 抵抗棒を外し、ハンドルを地面に付けた状態で保管するとエンジンがかかりにくくなることがあります。

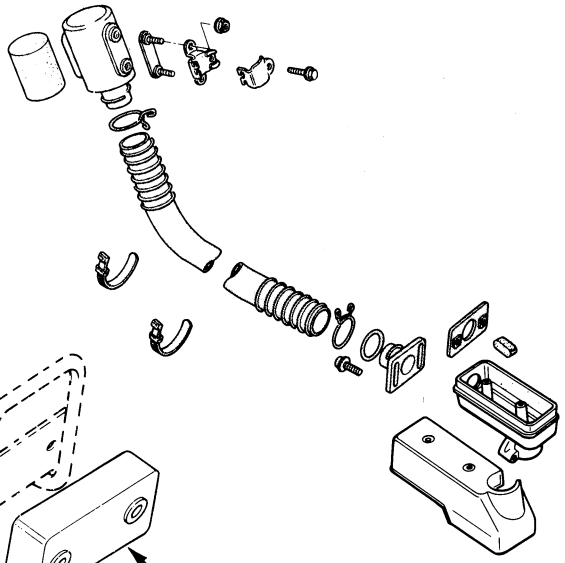
別　売　部　品

● 延長爪(2個)

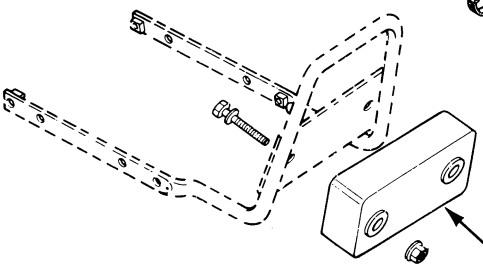


● シュノーケル空気清浄器

土煙りの立つようなホコリの多い作業に使用します。



● フロント ウエイト



故　障　の　と　き　は

むやみに分解しないで、はやめにお買いあげ販売店で点検整備をしてもらうことがティラーを長持ちさせる秘けつです。

始動しない時は次の点を確かめましょう。

- ガソリンはありますか？
- エンジン　オイルは注入口、口元までありますか？
- 燃料ろ過器カップ部の中に水やゴミが入っていませんか？
- 点火プラグから火花が出ますか？

  次の点検をする前に、エンジンやその他の所にガソリンが付着していないか確認してください。ガソリンが付着していると引火するおそれがあるので蒸発するのを待つか、またウエスで完全にふきとってから行ってください。

  プラグを取外し、プラグ　キャップに取付けプラグをエンジンにアースさせ(感電を避けるためにプラグ　キャップ以外には触れないでください。)、エンジン　スイッチを〝運転〟の位置にして、始動グリップを強く引きます。この時プラグの電極に火花が飛ぶか確認します。

注意　• この点検は風通しのよい場所で行ってください。

- 始動方法は、取扱説明書通りですか？

主クラッチが作動しない時は次の点を確かめましょう。

- クラッチ　ワイヤの調整方法が取扱説明書通りですか？

少し時間をおいて
もう一度確めましょう

故障の修理
お買いあげ販売店へお申しつけください。

主　要　諸　元

型　　式		F210R1
区　　分		KR1
機体寸法	全　長(mm)	1385
	全　幅(mm)	555
	全　高(mm)	860
重　量(kg)		33.0
エンジン	名　称	ホンダGV100
	形　式	空冷4サイクル1気筒横形ガソリン
	総排気量(cc)	90
	出力／回転速度(PS/rpm)	1.4/3600 最大(2.4PS)
	使用燃料	ガソリン(レギュラ)
	燃料タンク容量(ℓ)	0.9
	点火方式	無接点マグネト点火
	始動方式	リコイルスタータ
主クラッチ方式		シュークラッチ
変速段数		前進1段
安全鑑定適合番号		802045

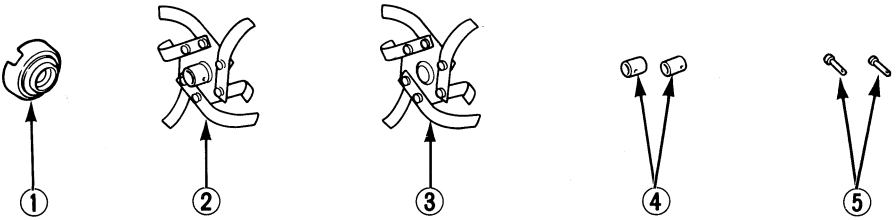
同 梱 部 品 の 組 み 付 け か た

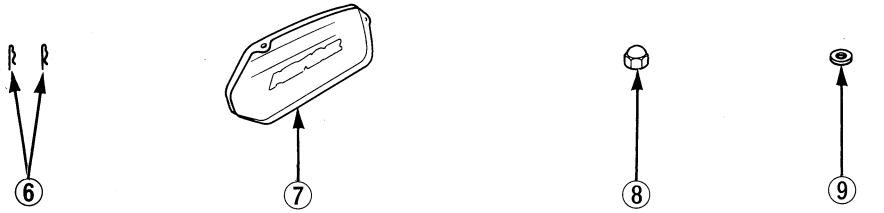
次の手順と要領で同梱部品を組み付けてください。
なお、説明に使用しているイラストが一部実機と異なる場合がありますが、取り付け関係は同じですので御了承ください。

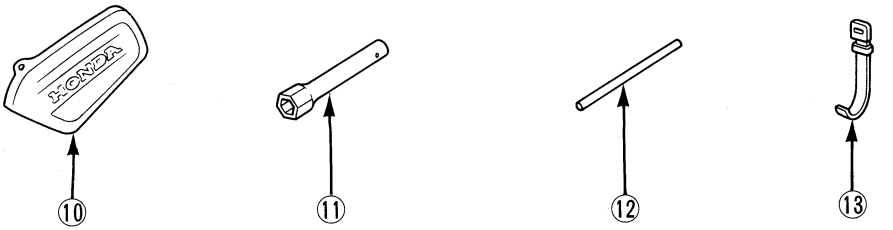
注意 作業は必ず二人以上で行い、一人が取り付ける間は、もう一人が本機を支えるなどして安全には充分注意してください。

● 同梱部品リスト

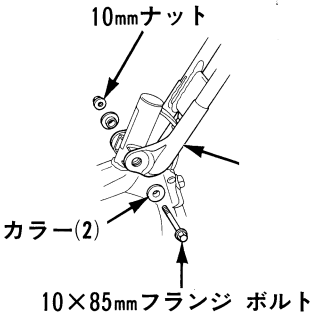
No.	部　品　名	個　数
①	グラス ガード	2
②	メイン パイプ(左)	1
③	メイン パイプ(右)	1
④	ロータ カラー	2
⑤	ピン(8×46)	2
⑥	固定ピン	2
⑦	サイド カバー(右)	1
⑧	6mm ナット	4
⑨	6mm プレーン ワッシャ	4
⑩	サイド カバー(左)	1
⑪	プラグ レンチ	1
⑫	プラグ レンチ ハンドル	1
⑬	ワイヤ バンド	2


①
②
③
④
⑤


⑥
⑦
⑧
⑨


HONDA
⑩
⑪
⑫
⑬

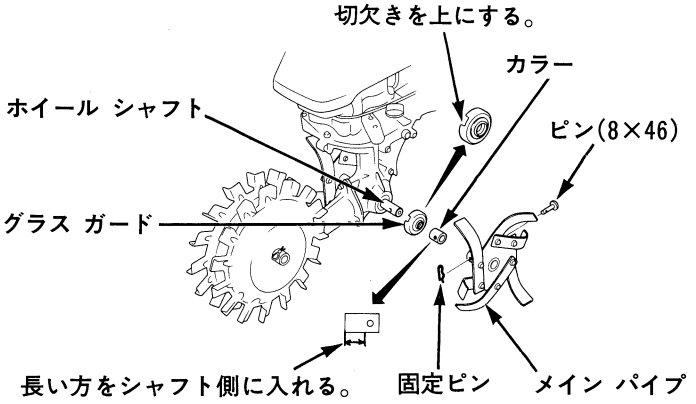
●ハンドル



●グラス ガード、メイン パイプ

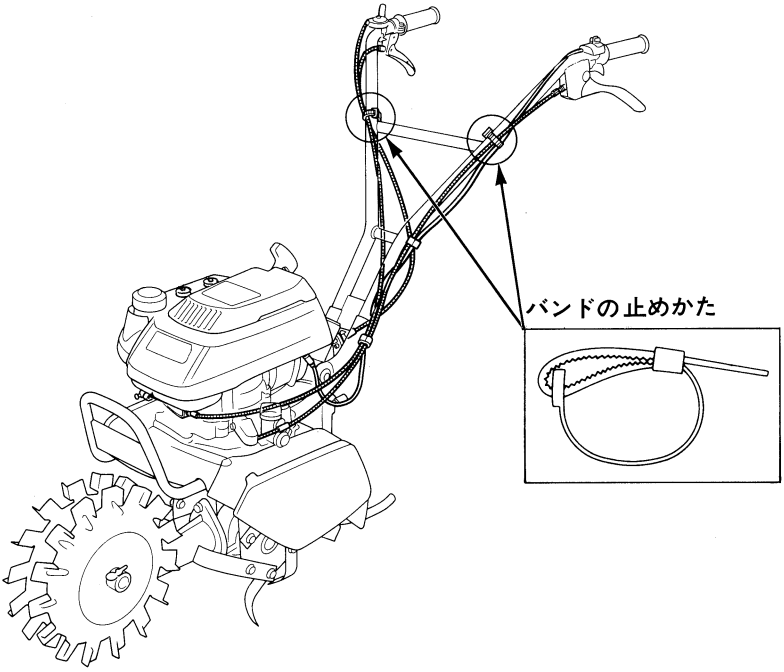
・グラス ガードの角張った「切欠き」を上にして取付けます。

・本機が倒れないように支えながら、メイン パイプを取付けます。



● ワイヤリング

・バンドとケーブル ガイドを使って図のように止めます。



HONDA
本田技研工業株式会社
東京都港区南青山２－１－１



30737810
00X30-737-8100

K1
Ⓜ 1008905